

研究課題名：	COVID-19 中等症受け入れ病棟における ネーザルハイフロー（HFNC : high flow nasal cannula)使用実態
所属(診療科等)：	公立昭和病院 感染管理部
研究責任者(職名)：	一ノ瀬 直樹 (担当室長)
研究期間：	2021年10月11日～2025年3月31日
研究目的と意義：	<p>COVID-19 患者への治療の一環である酸素デバイスには、ネーザル、マスク、リザーバーの他、ネーザルハイフロー（HFNC : high flow nasal cannula）、人工呼吸器、ECMOがある。HFNCの特徴は、低侵襲・高流量・加温加湿ができ、挿管を回避したい場合にも用いることができる利点があるが、COVID-19 流行初期においては、エアロゾルの問題から、原則使用しないとされていた。しかし、エビデンスの蓄積から、使用が可能になってきた。</p> <p>公立昭和病院の北3病棟では、中等症までの患者の入院の受け入れを担当している。2021年7月末までにCOVID-19で入院した患者は、482名であった。うち中等症Ⅱ以上の患者は、197名で、HFNCを使用した患者は、33名であった。重症化し、救命センターで全身管理が必要とされた患者が、12名いた。挿管を回避するためにも、適切なタイミングでHFNCを導入することが肝要である。</p> <p>HFNC使用の変遷とその状況、導入した患者の転帰について実態を調査し、今後の治療に役立てる。</p>
研究内容：	<p>●対象となる患者さん 2020年2月1日から2025年3月31日までに、当院北3病棟にCOVID-19で入院した患者さん</p> <p>●利用するカルテ情報 なし</p> <p>●研究方法 性別、年齢、既往歴、身長、体重、SpO₂、臨床検査値（AST、ALT、LDH、CK、Cre、BUN、CRP、フェリチン、D-dimer、HbA1c など）、HFNC使用前の酸素のデバイスと酸素投与量、HFNC使用期間、転帰、治療薬剤について診療録を用いて後ろ向きに調査する。</p> <p>●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院</p>
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：岸田 貴志 (看護師) 住所：小平市花小金井8丁目1番1号 電話：042(461)0052(代表) FAX：042(464)7912</p> <p>【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042(461)0052 内線2247 受付時間：月～金 9:00～17:00(祝・祭日を除く)</p>